第13課　ペテロの手紙における大きな主題

【暗唱聖句】

「キリストも、罪のためにただ一度苦しまれました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しまれたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。キリストは、肉では死に渡されましたが、霊では生きる者とされたのです」第一ペテロ3:18

【今週のテーマ】

【日曜日　苦しみ、イエス、救い】

ペテロは救いについて語るとき、イエス様が身代わりとなって苦しんでくださったことと関連づけて語っています。

 「この方は、罪を犯したことがなく、その口には偽りがなかった。」ののしられてもののしり返さず、苦しめられても人を脅さず、正しくお裁きになる方にお任せになりました。そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました。あなたがたは羊のようにさまよっていましたが、今は、魂の牧者であり、監督者である方のところへ戻って来たのです」第一ペテロ2:22～25

ここではイザヤ書53章を用いて、わたしたちが救われるためにイエス様がどれほど苦しまれたのかを語っています。しかし、そのおかげで、羊のようにさ迷っていたわたしたちは、魂の牧者である方のところへ戻ってくることができました。

「あなたがたは、父である神があらかじめ立てられた御計画に基づいて、“霊”によって聖なる者とされ、イエス・キリストに従い、また、その血を注ぎかけていただくために選ばれたのです。恵みと平和が、あなたがたにますます豊かに与えられるように」第一ペテロ1:2

ここでは、わたしたちが救われたのは初めから神様のご計画だったと聖書は語っています。なぜ選ばれたのかというと、聖霊によって聖なるものへと作り変えられていくためであり、またキリストの血を注ぎかけていただくことによって罪なきものとなるためです。つまり、神の子として、また天国に相応しい者として生まれ変わるためです。キリストの血が注ぎかけられるとは、キリストの命と引き換えに、わたしたちに永遠の命が与えられたのだということを表しています。それだけの犠牲を払っても惜しくはないと神様は思われたのです。

「キリストも、罪のためにただ一度苦しまれました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しまれたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。キリストは、肉では死に渡されましたが、霊では生きる者とされたのです」第一ペテロ3:18

ここでもキリストがわたしたちを神様のもとへ導くために苦しまれたことが強調されています。

「あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです」第一ペテロ1:8，9

また、キリストの苦しみの実りとしてわたしたちが救われるためには、わたしたちに神様の愛を信じる信仰がなければならないことをペテロを教えています。

【月曜日　私達はいかにいきるべきか】

ペテロはクリスチャンの生き方や行動に注目し、どう生きるべきかを教えています。それをまとめると、聖なる者となり、聖なる生活をおくることとなります。これは聖霊の働きであり、この過程を聖化と言います。

①　ペテロが繰り返し述べているように、聖なる生き方は神様の裁きと関係しています。

「このように、すべてのものは滅び去るのですから、あなたがたは聖なる信心深い生活を送らなければなりません」（第一ペテロ3:11）

②　神様ご自身が聖なる方だから、わたしたちも聖なる者とならなければならないと教えられています。これは聖霊の働きであり、わたしたちが聖なる者になりたいと心から望み、祈るとき聖化が始まります。また、わたしたちは聖なる者となり、聖なる生き方をするために選ばれたのだと教えています。

「召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も生活のすべての面で聖なる者となりなさい」第一ペテロ1:15

「あなたがたは、父である神があらかじめ立てられた御計画に基づいて、“霊”によって聖なる者とされ、イエス・キリストに従い、また、その血を注ぎかけていただくために選ばれたのです」第一ペテロ1:2

③　ペテロは聖なる生活とは具体的にどのような生活であるかを教えています。以下の聖句はその一部です。

「だから、悪意、偽り、偽善、ねたみ、悪口をみな捨て去って」第一ペテロ2:1

「終わりに、皆心を一つに、同情し合い、兄弟を愛し、憐れみ深く、謙虚になりなさい」第一ペテロ3:8

「だから、あなたがたは、力を尽くして信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には信心を、信心には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい」第二ペテロ1:5～7

【火曜日　再臨の希望】

「また、あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しぼまない財産を受け継ぐ者としてくださいました」第一ペテロ1:4

迫害の中にある人々に対して、再臨の希望をペテロは語ります。朽ちず、汚れず、しぼまない天に蓄えられている財産を受け継ぐことになるのだと励ましています。

同時にもう一つの未来に起こるべきこと、裁きについても語ります。つまり、いま迫害があるけれども、最後には公平な裁きのときが来るということです。

「また、あなたがたは、人それぞれの行いに応じて公平に裁かれる方を、「父」と呼びかけているのですから、この地上に仮住まいする間、その方を畏れて生活すべきです」第一ペテロ1:17

「彼らは、生きている者と死んだ者とを裁こうとしておられる方に、申し開きをしなければなりません。 死んだ者にも福音が告げ知らされたのは、彼らが、人間の見方からすれば、肉において裁かれて死んだようでも、神との関係で、霊において生きるようになるためなのです」第一ペテロ4:5、6

「今こそ、神の家から裁きが始まる時です。わたしたちがまず裁きを受けるのだとすれば、神の福音に従わない者たちの行く末は、いったい、どんなものになるだろうか」第一ペテロ4:17

しかし、キリストのご再臨と裁きは遅れているかのように見えます。その理由についてもペテロは触れています。それは一人でも多くの人が悔い改めるため、もうひとつは神の子たちもより聖なる生き方をして備えるためです。現在の状況がどうであれ、未来に起こるこの二つの出来事は確実に起こります。それを見据えて生きていくことが大切です。

【水曜日　社会と教会における秩序】

「主のために、すべて人間の立てた制度に従いなさい。それが、統治者としての皇帝であろうと、あるいは、悪を行う者を処罰し、善を行う者をほめるために、皇帝が派遣した総督であろうと、服従しなさい。善を行って、愚かな者たちの無知な発言を封じることが、神の御心だからです」第一ペテロ2:13

政府や宗教の権威者たちによって迫害される中にあって、しかしペテロは権威者に従うようにと教えています。権威者に逆らえばますます状況が悪くなる一方です。たとえばローマから派遣された総督は、基本的には悪を罰し、善を行うものをほめるものです。自ら状況を悪くするのは賢いことではありません。

　またこの権威あるものに対しては、「ゆだねられている人々に対して、権威を振り回してもいけません。むしろ、群れの模範になりなさい」（第一ペテロ5:3）と教えています。

【木曜日　聖書の重要性】

「この救いについては、あなたがたに与えられる恵みのことをあらかじめ語った預言者たちも、探求し注意深く調べました。預言者たちは、自分たちの内におられるキリストの霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光についてあらかじめ証しされた際、それがだれを、あるいは、どの時期を指すのか調べたのです」第一ペテロ1:10、11

ペテロは聖書の重要性について語ります。聖書には驚くべき恵みや知恵、希望が書かれてあるからです。聖書を書いた使徒や預言者たちでさえ、聖書を注意深く読み、学んでいました。また偽教師に対抗するためにも聖書の学びの重要性を説いています。

「その手紙には難しく理解しにくい個所があって、無学な人や心の定まらない人は、それを聖書のほかの部分と同様に曲解し、自分の滅びを招いています」第二ペテロ3:16

聖書は難しい箇所があり、解釈を誤ると自らに滅びを招いてしまうことを警告しています。これを防ぐために、謙遜な思いをもって祈りつつ学ぶこと、他の聖書箇所と比較すること、また複数の者と分かち合いながら学んでいくことも大切です。しかし、なぜ聖書の中には難しい箇所があるのでしょうか。そのことが懐疑論者の聖書の攻撃の論題となってしまっています。しかし、このことがかえって聖書が神様の霊感によるものであるという強い証拠でもあるのす。もし聖書の神についての記録がわかりやすいことばかりで、神の偉大さと崇高さが限りある心ですべてを知る尽くすことができるとしたら、逆に聖書は神様からのものではないということになってしまうのではないでしょうか。聖書に示されている主題が大きく神秘的であるということが、神のみ言葉であるとの信仰を起さなければなりません。しかし、そうかと思えば子供でも重要な真理を理解することもできるのが聖書です。